

目次／宮参りの重ね 表紙／エッセイ「実習船『かもめ』」 p.2-3
／展覧会案内 第66回企画展「商家の暮らし～花巻・佐藤家の衣食住～」 p.4-5
／活動レポート「大津波被災文化財保存修復技術連携プロジェクト」 p.6-7
／インフォメーション p.8

第66回企画展（岩手県文化振興事業団創立30周年記念事業）

商家の暮らし～花巻・佐藤家の衣食住～

平成27年6月30日(火)～8月23日(日)



宮参りの重ね(男児)

身丈77.0、一つ身、月に松竹梅図

■エッセイ

■実習船「かもめ」

館長 中山 敏

■奇跡のボート

平成25年4月下旬、岩手県立高田高等学校の横田校長から電話が入りました。「海洋システム科の実習船がアメリカに漂着し返却の申し出があった。実習船の大きさは5～6mで、海上輸送費は日本郵船が支援してくれるが陸上輸送費は目処が立っていない。本校では使用できないので被災資料として博物館に収蔵できないか」との相談内容でした。

実習船は、平成23年3月11日の東北地方太平洋沖地震に伴う大津波によって、陸前高田市から2年以上太平洋を漂流し、約8,000km離れたアメリカ合衆国カリフォルニア州クレセントシティの海岸に漂着したものです。北太平洋海流、

カリフォルニア海流に乗って流れ着いたと推測されます。

聞くとところによると、地元のテルノーテ高校の生徒が付着した貝などを剥(は)ぎ取り、返却に向けて募金活動等を行っているとのことでした。

■返還そして対面

当館では被災資料の安定化処理・修復作業を行っており、博物館資料として活用できないか職員と相談しましたが収蔵スペースがないこと、高田高校の生徒・卒業生にとっては愛着のある実習船でもあることから地元の博物館に収蔵することが望ましいと考え、陸前高田市立博物館に打診しました。陸上輸送費の問題さ

えクリアできれば収蔵したいとのことでした。同年6月上旬、横田校長から「課題であった陸上輸送費は郵船ロジスティック(株)の支援を得て、陸前高田市立博物館(旧生出小学校)で保管することになった」旨の報告を頂きました。

実習船「かもめ」は、関係機関のご支援を頂き2年7ヶ月ぶりの同年10月22日に陸前高田市に里帰りしました。その後、同年11月にはキャロライン・ケネディ駐日大使が、平成26年2月中旬にはテルノーテ高校の生徒が陸前高田市を訪問し、高田高校の生徒と交流したことは新聞紙上で紹介されております。

私は、平成26年8月1日に陸前高田市立博物館で開催された被災文化財の安定化処理ワークショップの際、実習船「かもめ」を初めて見ることができました。その後、東京国立博物館本館正面玄関入り口で今年の1月13日、雪の降った1月30日の2回、実習船「かもめ」と対面しました。盛岡に戻って、漂着したクレセントシティが気になって仕方ありませんでした。

■クレセントシティ

クレセントシティは、カリフォルニア州最北西部テルノーテ郡の中心都市で北緯41度45分(陸前高田市は岩手県最南東部の北緯39度1分)に位置しています。市内をエルク川が流れ、南部には砂浜が形成されています。気仙川が流れ、高田松原の砂浜を有する陸前高田市が思い浮かびます。

ケッペンの気候区分によるとクレセントシティの気候は、夏乾燥冬温暖(7月の平均最高気温18度、降水量10mm。1月の平均最低気温4度、降水量258mm)の地中海性気候に区分されますが、年降水量は約1,700mmと多いで

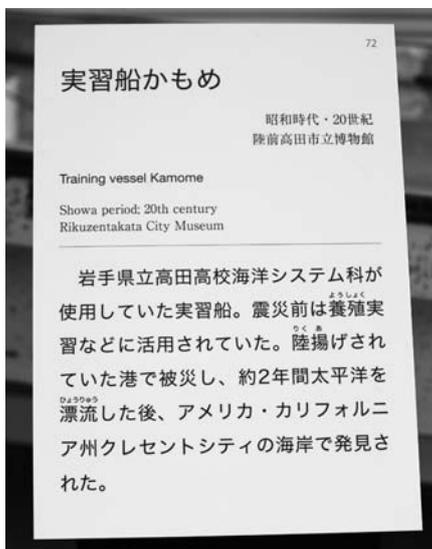


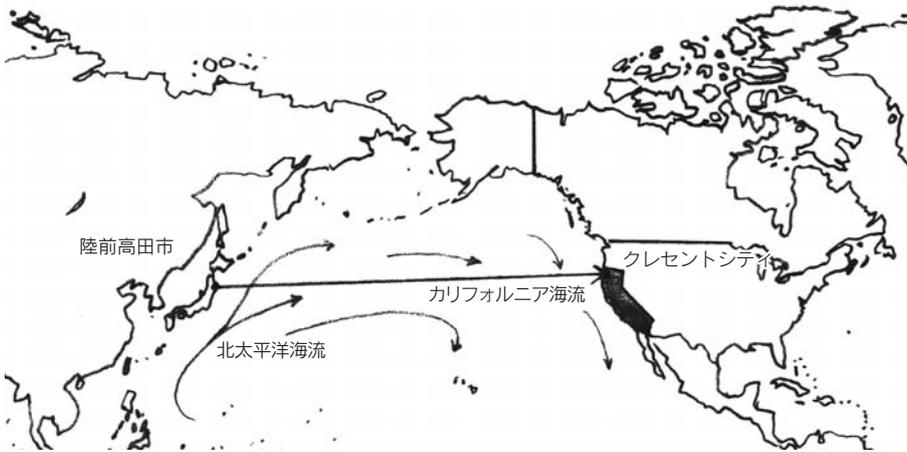
写真1 実習船かもめ



写真2 海をこえて結ばれた絆



写真3 全長約533cm、幅176cm、高さ67cm、重量0.6t FRP製



地図1 陸前高田市とクレセントシティの位置



地図2 カリフォルニア州内のテルノーテ郡の位置



地図3 テルノーテ郡内のクレセントシティの位置

す。陸前高田市の位置する気仙地方(7月の平均気温21.1度、降水量412mm。1月の平均気温-0.4度、降水量26mm)は温暖湿潤気候に区分されます。しかし、年降水量は約1,300mmと少なくクレセントシティの方が多い状態です。気仙地方は岩手の湘南と呼ばれ冬温暖な地域ですが、高緯度に位置するクレセントシティの方が冬は温暖です。

市域面積は5.3km²で、テルノーテ郡の面積は3,186km²。市の人口は7,643人、郡人口は28,610人です(2010年)。陸前高田市は面積232.29km²、人口19,308人です(2014年)。市内の高校並びに博物館は両市とも1校・1館です。交通等の社会資本や銀行、ホテル、映画館、百貨店等の数を比較するとクレセントシティの中心地機能が充実しており、

陸前高田市より大きな町と推定されます。周辺には国立・州立の公園が分布し、自然に恵まれた陸前高田市に似た地域です。

調べてみて何よりも驚いたのは、クレセントシティも幾度となく津波被害を受けていたことです。最も大きな被害は、1964年のアラスカ州アンカレッジ沖の地震に伴う津波です。死者12人、多数の行方不明、100人以上の負傷者、破壊された建物289棟、25隻の大型漁船と1,000台の自動車が進んでいました。今回の東北地方太平洋沖地震による津波は、最大約2.5mの高さで到達し、死者1名、35隻以上のボートを破壊しています。海岸地形や市内を流れる川が存在など津波被害が拡大する要素は、太平洋を挟んで位置する陸前高田市と共通

しているのです。このような背景からテルノーテ高校生の活動、そして実習船「かもめ」の返還に繋がっていることを理解することができました。

■博物館資料の意義

実習船「かもめ」を通してクレセントシティに興味を抱き、その特色を調べ、陸前高田市との比較から地域性を考察し、人びとの活動の一端に触れることができました。

平成27年3月11日に東京文化財研究所セミナー室で開催されたシンポジウム「文化を守る絆—津波被災文化財再生への挑戦」に参加しました。プログラムの最後に実習船「かもめ」の返還に関わったハンブルト大学津波研究センター教授(地理学)ロリー・テングラー氏、テルノーテ高校前校長コリーン・パーカー氏、岩手県立高田高校長横田昭彦氏のビデオメッセージが紹介されました。太平洋を挟んだ日米高校生の思いと活動に対して理解を深めることができました。

テルノーテ高校と高田高校の交流は、太平洋に友情の橋を架けました。これを契機にクレセントシティと陸前高田市が友好都市として絆を太くし、更なる交流が図れることを願います。

このように博物館資料の一つ一つにはドラマがあり、自然と人間が関わっています。展示資料は見るものの視点や感性によって様々な情報を提供し、未知の世界に誘ってくれます。新たな探求心を掻き立ててくれるのです。

参考文献

津波により被災した文化財の保存修復技術の構築と専門機関の連携に関するプロジェクト実行委員会編：「安定化処理」pp.235 (2014年12月26日発行)

■展覧会案内 岩手県文化振興事業団創立30周年記念事業

第66回企画展 「商家の暮らし ～花巻・佐藤家の衣食住～」

会期：前期 6月30日(火)～7月26日(日) 後期 7月28日(火)～8月23日(日) 会場：特別展示室

この展覧会は約25年間にわたって断続的に博物館資料を寄贈された花巻・佐藤家の資料を展示公開するものです。

資料収集は博物館の最も重要な仕事のひとつです。一般に資料収集は学芸員が調査に歩いて収集するものと所有者から寄贈されるものがあります。民俗資料は後者が圧倒的に多いのです。また、当館ではある一家の資料などをまとめて収集した場合、一括資料と呼んでいます。これには畠山家資料というのがありますが、平成14年にテーマ展「県北畑作農家の生活用具展」として紹介しました。一括資料が少ないのは収蔵庫の収納能力という物理的な理由にもよります。

では、この展覧会の見どころを紹介していきましょう。

■佐藤家の生活関連資料

佐藤家は、花巻市四日町で荒物屋を営んでいました。寄贈された資料は、その商売の道具とふだんの生活用品である民俗資料の一群です。

内訳は、昭和63年(1987)にはくくり雛(押絵)、享保雛などの雛人形15件、平成8年(1996)には紋付など



写真1 くくり雛

服10件、平成9年(1997)には和服、装身具、漆器のほか、銭箱・筆筒などの商売の道具132件、平成24年(2012)には和服、陶器、漆器など301件です。(件は資料が複数点ある場合の数え方で、たとえば20点1組を1件といいます。)この一連の資料を花巻・佐藤家の生活関連資料と名づけました。

このような民俗資料は衣食住や生業など『民俗文化財の手びき』に準じて分類されます。実際に分類してみると、たとえば「食」の分類にあたるものはたくさんあるのですが、炊事用具はごく少数でした。大部分は、漆器や陶磁器の飲食器です。「住」の分類ではもっと少なく、寝具が中心でした。したがって、やや偏りのある資料群といえるでしょう。

それでも、この資料の価値は計り知れないものがあります。



写真2 箱枕(小枕はない)

■家の中のものをすべて保存する

この資料はある一家庭で使われた民俗資料です。博物館では、たとえばいろいろは盛岡地方、自在鉤かぎは岩泉地方、火棚は一関地方というように、ばらばらに収集したものをひとつの生活の場として展示することがあります。実際にはこのような光景は見られません。特に自在鉤などのように、地方色あふれる資料でこのような展示をするとおかしなことになってしまいます。

当館の常設展示「家のくらし」でもそのようなことがいえます。当館では常居じょうい・

台所の再現ステージを雫石地方に設定しています。その主要な構成である神棚・仏壇・オカザリ(小正月飾り)は雫石地方のもので、そこに展示された台所の資料は県内全域のもので、厳密には先ほどのような注意が必要です。

佐藤家資料ではこのようなことがありません。

■絶滅危惧種を残す

もうひとつは、民具のなかには、使用することがなくなり、今後入手できなくなるであろう物があります。生物になぞらえて、絶滅危惧種ともいことがあります。たとえば、はたき、椀籠(ゴカゴ)などがそうです。すす払いなどをしないかぎり、はたきは掃除の時には使わないのではないのでしょうか。また、家族が少ない家庭では、椀籠はないそうです。タンスに並べておくといえます。

個別に資料を収集していると、どうしても何かを欠いてしまうおそれがあるのです。また、将来、何が絶滅危惧種になるかまったくわかりません。要らなくなったものは捨ててしまうものです。一括して収集することによって、そのような漏れをふせぐことができると思われます。

では、少し実際の資料を見てみましょう。

■荒物屋「山口屋喜兵衛」

佐藤家は花巻市四日町の旧奥州街道沿いにあり、「山口屋喜兵衛」の屋号で荒物屋を営んでいました。現在も3間間口の町家が残り、往時の面影が残っていますが、店は営業していません。内部に商売の痕跡はほとんどなく、かなり早い時期に廃業したようです。現当主の武さん自身も幼少期に店の記憶がないので、明治

末から大正期に廃業したのではないかと
思われます。

その後、蔵の中を調べているうちに、
いくつか当家の歴史がわかる資料が発見
されました。

ひとつは家相図です。家相図は、家を
新築または増改築するさいに、屋敷構え、
特に主屋の間取りや附属建物との位置関
係、方角、樹木の吉凶などの家相を判断
し、図にしたものです。幕末から明治時
代に流行しました。そのうち明治20年
の墨書銘のある家相図を見ると、間取り
や屋敷構えがおおよそ現在の住宅と同じ
であることがわかります。

もうひとつは、『日本全国商工人名録』
(明治25年)です。同書は明治22年から
3年かけて発刊されたもので、その中
に「佐藤喜兵衛」の名前が載っているこ
とがわかりました。「和洋小間物書籍陶器
商」とあり、扱う品目は砂糖・茶・油類・
荒物です。また、この本に押された店判
には「書籍類小間物類 山口屋喜兵衛」
とあります。したがって、明治22年頃
には営業中であり、荒物屋というだけ
なく、取り扱った商品までがわかります。

ところが、『増補訂正日本全国商工人名
録第二版』(明治31年)には、「佐藤喜兵



写真3 店判(山口屋喜兵衛)

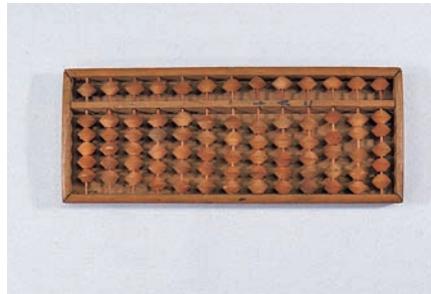


写真4 算盤(五つ玉)

衛」はなく、酒母・麴製造業として「山
口屋 佐藤伊惣治」があります。伊惣治
家は本家で、栗木町(現四日町2丁目)
にあったといえます。荒物屋としての廃
業はその間のことだと思われま

す。取り扱った商品はだいたいわかりま
したが、商売の道具は非常に少なく、算盤、
棹秤、矢立、銭箱、帳箱(筆筒)、懸硯
などがあるだけです。大福帳や仕入れ台
帳などの帳簿類は失われています。

手がかりになるものとして商品箱(見
本箱)があります。2013年、江戸東京
博物館で開催された「明治のこころ
モースが見た庶民の暮らし」展のモース
コレクションの中に「漆塗り鞘見本箱」
というのを見つけました。浅い10段
の木箱に鞘がびつしりと詰められていま
す。本品もこのような使い方をされてい
たのでしょう。

手がかりのもうひとつに商品名の判
(ゴム印)があります。この中に「東京
地張」と書いてあるものがあります。東
京地というのが産地、張りは煙管の製作
を意味するので、煙管を扱っていたこと



写真5 商品箱(見本箱)



写真6 判(上「東京地張」と印影(下))

がわかります。煙管を扱えば、煙草も扱っ
たでしょう。

■おわりに

一般に商家は裕福だったといえるで
しょう。近年、古くからの町場で町を挙
げての「ひなまつり」が行われています。
そこでは旧家に飾られている立派な雛人
形を見ることができるよう。佐藤家
にも享保雛や雛人形があります。今でこ
そ古いお雛様はブームになっていますが、
武さんは子どもの頃はとても好きになれ
なかったそうです。よそのお雛様はキラ
キラときれいなのに、わが家のものはのっ
ぺり顔で着物も古臭いと感じたそうです。

民俗資料は市井の人間の生きた証しで
す。武さんと奥様の淑子さん(故人)は、
古いものを大切にしました。淑さんが
整理した和服には使用歴まで書かれてい
ました。

(主任専門学芸員 瀬川 修)

※着物の展示替えがあります(後期)。展
示解説会・講演会はインフォメーション
をご覧ください。(P.8)

■活動レポート

大津波被災文化財保存修復技術連携プロジェクト

首席専門学芸員 赤沼 英男(文化財科学部門)

1 大津波被災資料の安定化処理

わが国を突然襲った東日本大震災からはや4年3ヶ月が経過しようとしています。巨大地震発生後襲来した大津波によって、東北地方太平洋沿岸部の自然遺産や文化遺産、博物館に代表される文化施設はその多くが壊滅的被害を受けました。被災した機関では現在、文化庁が準備した被災ミュージアム再興事業をはじめとする様々な制度を活用し、被災資料の再生に取り組んでいます。

被災資料の再生を進めるうえでの最大の課題は、土砂をはじめとする様々な物質が混在する海水に浸かった資料から、劣化要因となる塩分や土砂、繁殖したカビ(真菌)や細菌を取り除く、安定化処理方法の確立です。国内はもとより国際的にも未経験の領域で、確立された方法は存在しません。岩手県立博物館では発災の年の4月5日から、全国の保存科学の研究者、文化財修復の専門家等の支援を得、試行錯誤を繰り返しながら、救出された古文書に対する安定化処理法の確立に取組みました。

次に、古文書で確立した方法をベースに、木や金属、繊維など様々な素材を用いて製作されている民俗資料の安定化処理方法確立に着手しました。現在、水洗可能な資料についてはほぼ定式化された方法で安定化処理が行われていますが、水彩画や油画のように、直ちに水洗が難しい資料については今もなお、その確立に向けた実験が行われています。

発災以降、連綿と続けられてきた安定化処理作業の過程で、新たに考案・工夫され確立されてきた技術を、全国の博物館関係者と共有し、将来類似の自然災害が発生した際に適切に、そして迅速に対応するための備えを確固たるものしておくこと、そして今後も続く被災文化財再

生の重要性を多くの方々に理解していただくことはきわめて重要です。

「活動の記録」、「技術の共有と普及」、「活動に対する理解の醸成」、この3点を活動目的に掲げ、岩手県立博物館を中核館とする「津波により被災した文化財の保存修復技術の構築と専門機関の連携に関するプロジェクトのための実行委員会」を結成し、文化庁が準備した「平成26年度地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業」の助成を受け、公益財団法人日本博物館協会主導のもと、様々な活動を行ってきました。以下に平成26年度の活動内容を紹介します。

2 展覧会

大津波で被災した資料の再生に向けた取組状況を一般の方々に正しく理解していただくうえでの有効な方法は、実物資料の公開です。プロジェクト実行委員会では東京国立博物館、兵庫県立歴史博物館、宮崎県総合博物館と連携し、安定化処理を主題とする展覧会を平成27年1月～3月、上記3館で開催いたしました。

それに先立ち岩手県立博物館では、平成25年1月5日から3月17日までテーマ展「2011.3.11平成の大津波被害と博物館一被災資料の再生をめざして」を特別展示室で開催し、その後、昭和女子大学光葉博物館、江戸東京博物館で巡回展示しました。自然史標本の被災状況、安定化処理、および修復に焦点を当てた展覧会は、その再生を支援した大阪市立自然史博物館、奈良県橿原市昆虫館、兵庫県伊丹市昆虫館で開催されました。

首都圏で過去2回にわたり被災文化財再生をテーマにした展覧会が実施されたことをふまえ、東京国立博物館の展示では絵画、繊維資料、楽器等、最近新たに確立された安定化処理技術で再生された文



写真1 リードオルガンの演奏風景(奏者は中村由利子氏。東京国立博物館提供)

化財が取り上げられました。特に岩手県陸前高田市立博物館所蔵・海保オルガン社製リードオルガンは、7個のストップ(特定のパイプへの送風を閉塞することで音色を選択する機構)を有するリードオルガンとしては、現存する唯一の資料とされています。リードオルガン協会の支援のもと専門工房で修復が施され、音響の再生にも成功しました。東京国立博物館では展覧会開催中合計9回、修復されたオルガンによる演奏が行われました(写真1)。

平成27年1月17日は阪神・淡路大震災発災から20年目の節目に当たります。兵庫県立歴史博物館では今日の活動のベースとなった阪神・淡路大震災発災当時の文化財等レスキュー活動の様子、陸前高田市立博物館所蔵資料を主体とする岩手県沿岸部で被災した資料の救出、安定化処理、および修復の状況が順を追って詳しく紹介されました(写真2)。

宮崎県の宮崎歴史資料ネットワークには、被災後救出された陸前高田市の博物学者、鳥羽源藏氏が研究に使用した学術



写真2 兵庫県立歴史博物館での展示風景(兵庫県立歴史博物館提供)

表1 開催された展覧会

開催館	テーマ	会期	入場者数
兵庫県立歴史博物館	災害と歴史遺産－被災文化財等レスキュー活動の20年－	平成27年1月10日(土)～3月15日(日)	7,374
宮崎県総合博物館	“文化財”を守り伝える力	平成27年1月10日(土)～2月22日(日)	4,849
東京国立博物館	3.11大津波と文化財の再生	平成27年1月14日(水)～3月15日(日)	78,615

雑誌等のリストを作成していただきました。その関係もあり展覧会では、岩手県沿岸部の博物館が所蔵していた資料に加え、鳥羽源藏氏が収集した自然史標本、学術雑誌などが多数公開されました。

3館のテーマ、会期、入場者数は表1に示すとおりです。会期中の入場者数は3館で合計9万人を超え、被災地における被災文化財等再生の現状と課題について理解を深めることができました。

3 ワークショップ

今回の震災を通し確立された安定化処理技術の普及と被災地への技術支援を目的として、2で紹介した平成26年度展覧会開催館に加え、仮設陸前高田市立博物館、および日本博物館協会の全国大会開催に合わせ、三重県立美術館でワークショップを実施しました。仮設陸前高田市立博物館を除く4つの施設では、被災した紙を素材とする資料、民具、および植物標本を対象とする安定化処理方法の実習解説が、当該作業に従事してきた岩手県立博物館、陸前高田市立博物館職員によって行われました(写真3)。

参加者は塩素イオンメーターを使い、被災資料から水道水に溶出する塩化物イ



写真3 宮崎県総合博物館でのワークショップ(宮崎県総合博物館提供)

オン濃度を測定しました。被災資料に相当量の塩分が含有されている状況が確認され、多くの受講者に安定化処理の重要性を認識していただくことができました。

仮設陸前高田市立博物館で実施したワークショップは、上記で紹介した実習に繊維製品の安定化処理方法、修復したリードオルガンの音響再生を加えた内容で行われました。繊維製品の実習では脱塩方法、形態保全方法も含め、技術的に多くの新しい要素が含まれていたため、受講者から様々な質問が出されました。

4 シンポジウム

東日本大震災発災から4年目に当たる平成27年3月11日、東京文化財研究所講堂で、東京国立博物館・プロジェクト実行委員会主催講演会およびシンポジウムが開催されました。中山敏プロジェクト実行委員長(岩手県立博物館長)の挨拶の後、作家の京極夏彦氏、NHK解説委員の柳澤伊佐男氏をお招きし、それぞれ「未来を生み出すのは過去である」、「大規模災害から地域の歴史文化を守るために～文化財レスキューの取材を通じて～」という演題で基調講演をしていただきました。

パネルディスカッションは「文化財を守る絆」をテーマに、東京国立博物館保存修復課長・神庭信幸氏のコーディネートで進められ、岩手県沿岸部の中でも特に深刻な被害を受けた陸前高田市立博物館の救援活動に従事した5名の博物館関係者の間で、文化財の救出と再生に関する活発な意見交換がなされました。

14時46分から一分間の黙祷(もくとう)

の後、震災後太平洋を渡り米国に漂着した、岩手県立高田高等学校実習船『かもめ』の救出と保全、そして引き渡しに尽力された、ハンブルト大学津波研究センター、ロリー・テングラー教授、テルノーテ高等学校、コリーン・パーカー前校長、岩手県立高田高等学校、横田 昭彦校長から、震災を克服し形成された「太平洋を越えた絆」の概要が、ビデオメッセージの形で紹介され、併せてその継承と発展の重要性が表明されました。

プロジェクト実行委員会は上記活動に加え、東北地方太平洋沿岸部における博物館関係施設の被災状況、被災資料の救出状況、これまで試行錯誤の中で様々な被災資料に対し確立してきた安定化処理方法の概要等をまとめた、日英2ヶ国語ガイドブックを出版し、国内外の関係機関等に配布しました。未だ復興途上にある被災地の支援、今後世界中いたるところで発生が懸念される大規模自然災害に対応可能なシステムを構築する際の基礎資料として活用されることを期待しています。

東日本大震災の傷跡は余りにも深く、陸前高田市関係資料に限っても、未だ30万強の資料が安定化処理を待っています。プロジェクト実行委員会では今後も被災資料再生、被災地における博物館機能再生への支援、そして新たな大規模自然災害への対応を視野に入れた様々な活動を、国内外の文化財関係機関と連携し実施する予定にしています。皆様におかれましては今後もこれまで同様ご支援の程、よろしくお願い申し上げます。



岩手県立博物館

IWATE PREFECTURAL MUSEUM

インフォメーション〈2015.6.1～2015.9.30〉

お知らせ

- 臨時開館 8月3日(月)、8月10日(月)
8月3日(月)と8月10日(月)は臨時開館します。
- 資料整理のため休館 9月1日(火)～9月10日(木)
資料整理のため9月1日(火)から9月10日(木)まで休館します。
- 敬老の日 65歳以上入館無料
9月21日(月・敬老の日)は、65歳以上の方は無料で入館できます。

展覧会

- 第66回企画展 (岩手県文化振興事業団創立30周年記念事業)
「商家の暮らし～花巻・佐藤家の衣食住～」
平成27年9月30日(火)～8月23日(日) (前期・後期) 特別展示室
花巻市の商家佐藤家で、江戸時代末期から戦後にかけて使用された生活の道具と商売の道具を展示します。(7月28日から後期展示)
- 展示解説会 特別展示室 要入館料
7月4日(土) 11:00～12:00
8月3日(月・臨時開館日) 14:30～15:30
- 関連講座
県博日曜講座をご覧ください。
- テーマ展「火山灰から社会をよむ - 10世紀の巨大噴火と北東北 -」
平成27年9月19日(土)～11月23日(月・祝) 特別展示室
10世紀前半、北東北は巨大噴火に2度も襲われました。しかし被害の全貌は未だに不明です。考古学からこの謎に迫ります。
※詳しくは次号でご紹介します。

伝統芸能鑑賞会

- 倉沢人形歌舞伎
6月21日(日) 13:30～15:00 講堂 当日受付 鑑賞無料
出演: 倉沢人形歌舞伎保存会
花巻市東和町に伝わる人形歌舞伎の公演です。人情話と義太夫の語りをお楽しみください。

県博日曜講座

- 第2・第4日曜日 13:30～15:00 講堂・教室
当館学芸員等が岩手の文化や歴史、自然について解説します。
* 展覧会関連講座
6月14日「南部家の歴史と由緒を重んじた藩主・南部利視」
兼平賢治氏 (東海大学文学部講師)
6月28日「生命史をひも解くーカンブリア紀ー」
望月貴史 (当館学芸員)
- * 7月12日「花巻・佐藤家の衣食住」 瀬川 修 (当館学芸員)
- * 7月26日「エクスカッション『花巻』～3コースから花巻を探る～」
中山 敏 (当館館長)
- 8月9日「幽霊のはなし」 川向富貴子 (当館学芸員)
- * 8月23日「花巻城下のくらしと文化」(民俗講座を兼ねる)
高橋信雄氏 (花巻市博物館長)
- 9月13日「瓦からみた岩手の古代史～胆沢城から平泉～」
鎌田勉氏 (岩手県埋蔵文化財センター調査課長)
- 9月27日「岩手に『弥生文化』はなかった？」
金子昭彦 (当館学芸員)

観察会

- 第69回自然観察会 「外山森林公園昆虫観察会」
6月28日(日) 10:00～15:00 於、盛岡市玉山区 現地集合・解散
標高800mの外山森林公園を会場に、低山の昆虫を観察します。
講師: 千葉武勝氏 (元岩手県農業試験場研究員)
定員: 20名程度 (小学校高学年以上) ※要事前申込み。
参加費: 100円 (傷害保険料)
応募期間: 5月25日(月)～6月22日(月) 定員充足しだい締切
- 第69回地質観察会 「網取の地層観察とイワシ化石採集」
7月5日(日) 10:00～15:00 於、北上市 現地集合・解散
北上市和賀川中流の網取付近で地層の観察と、菱内川流域でヒシナイワシの化石採集を行います。
講師: 大石雅之氏 (岩手県立博物館研究協力員)
定員: 20名程度 (小学校高学年以上) ※要事前申込み。
参加費: 100円 (傷害保険料)
応募期間: 6月10日(水)～6月22日(月) 定員充足しだい締切

観察会の申込み方法: 往復はがきまたは電子メールで受け付けます。詳細はお問い合わせください。

週末の催し

- ◆ミュージアムシアター
毎月第1土曜日 13:30～15:00前後 講堂 当日受付 視聴無料
6月6日「宮沢賢治作品」小学生～一般向け (のべ72分)
風の又三郎 (30分/アニメ)
狼森とざる森、ぬすと森 (19分/アニメ)
注文の多い料理店 (23分/アニメ)
7月4日 一般向け (97分)
雨月物語 (1953年/97分/モノクロ映画)
8月1日 小学生向け (のべ76分)
名探偵コナン 古代恐竜の謎に迫れ! (16分)
名探偵コナン 縄文体験やってみよう! (16分)
カブトムシ～昆虫の王者～ (22分)
クワガタムシ～大きなあごの戦士～ (22分)
※9月5日はお休みします。
- ◆チャレンジ! はくぶつかん
毎月第2・第3土曜、日曜、祝日、臨時開館日 小学生向け 随時受付
チャレンジ! マークをさがして はくぶつかんをたんけん!
6月 13日・14日・20日・21日 テーマ: 水
7月 11日・12日・18日・19日・20日 テーマ: 人
8月 8日・9日・10日・15日・16日 テーマ: 虫
9月 12日・13日・19日～23日 テーマ: 食
- ◆たいけん教室～みんなでためそう～ (予約制)
毎週日曜日 13:00～14:30 幼児 (保護者同伴)・小学生20名程度
さまざまな遊びやものづくり、実験を体験してみましょう。
★7月26日「こはくの玉づくり」、8月2日「ちぎり絵のうちわ」、8月9日「スライムであそぼう」は午前 (10:00～11:30) と午後 (13:00～14:30) の2回あります。
※7月26日「こはくの玉づくり」は有料500円、その他は参加無料
※要事前申込み。開催日の1週間前の日曜日から電話または博物館で開館時間 (9:30～16:30、休館日を除く) に先着順に受け付けます。
1度に3名まで予約可能です。予約状況はホームページでご確認ください。

6月	7日 14日	チャグチャグ馬コづくり 草花のそめもの	21日 28日	手づくり万華鏡 のびちみしゃくとり虫
7月	5日 12日	木の工作教室 石のオリジナルはんこ	19日 26日	ちぎり絵のうちわ こはくの玉づくり (500円)★
8月	2日 9日 16日	ちぎり絵のうちわ★ スライムであそぼう★ 化石のレプリカ	23日 30日	砂絵 手づくり万華鏡
9月	6日 13日	お休み 竹トンボ	20日 27日	恐竜ぬりえカード ほのほのあかり

※9月13日「竹トンボ」の予約受付は8月30日・9月11～13日となります。

定時解説

- 平日～土曜日 13:30～14:30 / 日曜日 10:30～11:30
解説員が常設展示室をご案内します。そのほかにも随時、解説員が皆様のご質問や解説のご希望におこたえています。
※7月26日(日)、8月2日(日)、8月9日(日)はお休みします。

利用のご案内

- 開館時間 9:30～16:30 (入館は16:00まで)
- 休館日 月曜日 (月曜が休日の場合は開館、翌平日休館)
※8月3日(月)、8月10日(月)は臨時開館
資料整理日 (9月1日～9月10日)
年末年始 (12月29日～1月3日)
- 入館料 一般310 (140)円・学生140 (70)円・高校生以下無料 ()内は20名以上の団体割引料金
※9月21日(月・敬老の日)は65歳以上無料
※学校教育活動で入館する児童生徒の引率者は、申請により入館料免除となります。
※療育手帳、身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方、及びその付き添いの方は無料です。

岩手県立博物館だより 第145号 平成27年6月1日発行	編集 岩手県立博物館 〒020-0102 盛岡市上田字松屋敷34 Tel. (019)661-2831 / Fax. (019)665-1214 発行 公益財団法人岩手県文化振興事業団 〒020-0023 盛岡市内丸13-1 Tel. (019)654-2235 / Fax. (019)625-3595
------------------------------------	---